

おかげさまで 30 年

この度は、永年勤続にて表彰していただき、誠にありがとうございます。そして、創立109周年の晴れがましい式典で、この場に立ってお話しさせていただくことをたいへん光栄に思っております。

思えば、30年もの長きにわたり勤めることができましたのも、ひとえに理事長先生・校長先生をはじめ諸先生方、さらに退職された先生方からの、温情あるお力添えと、これまでかかわってきた生徒たち、そして身近にいる家族のお陰だと感謝に堪えません。

よく生徒から「どうして先生になったんですか」と、質問されます。私の父も教師でした。父はこの近辺に当時、氷室という中学校があり、私が生まれる前から小学校4年生まで、15年もの長い間、勤務しました。その場所は田園風景が広がる、のどかな田舎で、人情味あふれる営みがそこにあったのでしょうか。父は仕事帰り、「寄って行って」と言われたのか、よく保護者の家などに立ち寄って、お酒を振る舞われることもあったのでしょうか。上機嫌で帰ってくるのが、記憶として残っています。その中学校の運動会にもよく連れられ、地域社会と一体となった運動会が繰り広げられていたこと

を、おぼろげに記憶しています。そんな父の働く様子から、とてもやりがいを感じ、自分も同じ道を歩みたいと思いました。

また、恩師にも影響を受けました。私が中学校 2 年生の時の担任の先生です。その先生は私の両親と同世代の先生で、穏やかな眼差しで接して下さる、優しいお母さんの先生でした。この先生の道德の授業、内容はよく覚えていないのですが「人は謙虚でなければならぬ」というようなテーマだったと思います。授業内容が先生の人柄とマッチしていました。この時、この先生の、人を教え導く教師としての優れた資質にあこがれを抱きました。私が 33 歳のときの結婚式に恩師代表としてスピーチをお願いしました。そしたら、どうでしょう。スピーチのなかで、20 年ほど前に私が感銘を受けたあの道德の授業についての話をされました。あの時の私の授業の感想が「僕は今日、『謙虚』という言葉は初めて知りました。非常にいい言葉を学び、勉強になりました」というような内容で、心に残る感想だったと、おっしゃっていました。もしかしたら、このできごととは、教える側と教わる側が共鳴し合い、「つながっていた」ということではないでしょうか。

教師としての喜びは何か、と聞かれたら、すかさず、生徒の笑顔

を見ること、と答えます。みんなの笑顔は私の栄養、活力になります。「頑張るぞ」という気にさせてくれます。本校の掲示板にも「笑顔は人間関係の第一歩」と記されています。より良く豊かな人生を送るには、笑顔は欠かせません。是非、心掛けてください。今でも忘れません。本校勤務の1日目、本校舎の職員室をノックし「失礼します」と言って入った瞬間、1人のかっこいい、年の頃、私より若そうなハンサムな先生が柔和に微笑みかけてくれたことで、いっきに緊張と不安が安堵に代わったことを今でもよく覚えています。

「教師冥利に尽きる」という言葉があります。その立場にいる者として、これ以上の幸せはない。という意味です。これを実感できた生徒との出会いについて述べたいと思います。30年も教師を続けていると、印象深い生徒との出会いは数多くありました。その中でも、話題が尽きないSくんを紹介します。彼は現在、大学2年生です。幸運にも3年間担任をさせていただきました。3年間かかわることができて、幸せだったなあと、率直に思います。彼は硬式野球部に所属し、寮生活を送りました。初めてのホームルームで、彼のすっとした姿勢や熱い眼差しに輝くきみを、彷彿とさせ、ビビッときました。格好いいと思いました。野球部顧問の先生からのお墨

付きもいただき、委員長になってくれるよう依頼しました。また、その返事のすがすがしさと言ったら、また、ビビッときました。彼には委員長を2年間、3年生で交通マナー委員をやってもらいました。彼のしっかりとした立ち居振る舞いに、クラスの生徒たちは、一目も二目も置き、全体に好影響を与え、まさにもう1人の担任と言っても過言ではない存在でした。入学当初から「授業中寝ません」と、断言していた通り、3年間貫きました。信念を曲げない強い心持を持った人物でした。私が一度、この生徒に注意されたことがありました。それは何かと言うと、手渡しすべきものを、私の面倒くさがりの性格から、何気なく投げて渡した時です。「だめですよ、投げちゃ」と。普段はあまり見せない厳しい形相で注意され、私も思わず、すみませんと謝ったことがなつかしく思い出されます。3年生の夏で野球部活動が終わると、寮を離れて、住んでいる真岡から通学しました。交通マナー委員の担当の時は、朝、5時前には家を出て、自転車で30分以上かけて雀宮駅まで、そこから電車で、葛生駅に着くのは7時20分過ぎ。これを弱音も吐かず、こともなげにやり遂げました。本当に頭が下がる思いです。また、彼は寮から学校までの登下校や交通マナー委員としての行き帰り、ゴミを拾うことを習

慣化した、とても感心な一面もありました。人として肝心な根っこがしっかりとした人物でした。先日、彼の大学の野球の試合を見に行きました。彼は手術した傷がまだ癒えず、ボールボーイをしていました。実に機敏にてきぱきと役割を全うしている姿を見て「S君は健在だな」と、思いました。

ここで一息、F君という生徒についてお話しします。F君は現在本校の2年生です。とても好感度抜群の生徒です。ある時、クラスに一つ与えられたボックスの組み立てを依頼したところ、快く、任せて下さいの一言。そして、もっと作りたいと言う。じゃ、となりも、そのとなりのクラスもやっていないから頼むよ。放課後、部活動の合間を縫って、結局、5つのボックスを組み立ててくれた親切なF君。つい最近も放課後1人、残らなければならなかった生徒を気遣い、補習授業もあるだろうに、ずうっと一緒にいてくれた心優しき少年。前庭のベンチで2人語らうあの光景を私は忘れません。

話はS君にもどします。もう一つ彼とのかかわりで忘れられないできごとが、大学受験に向けて、面接の練習をしたときの事です。尊敬する人物は、の質問に、ためらわずに、「上野拓志」先生です、と。あの時は、いっきに熱いものがこみ上げてきました。彼との出

会いは私の財産です。

この 30 年を節目に、これからの教師生活で気を配るべきことは、如何に生徒にかかわるかを主眼に置き、生徒の心に響く話・言葉を伝えていくことです。

あらためて、本日はありがとうございました。